『韓国語』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

問題の形式は本試験と同様であり、第1問への評価は省略する。

例年通り本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験（TOPIK）のⅡ（3～4級）及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級、CEFRB1～B2 レベルを想定していることをここに明記する。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）21 ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本試験同様、前文の「高等学校4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、適切とは言えない問いを中心に取り上げることとする。

第1問

A 発音に関する問題

令和3年度にも「첫인상」の発音問題が出題されている。その時にも指摘され、今年度の本試験でも同じく指摘した通り適切な問題とは言えない。

B 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

学習範囲内の語彙や文法であるが、その知識のみを問う問題の出題には疑問が残る。

C 日本語文を韓国語文に直す問題

学習範囲の語彙、文法、表現、語順の知識を使って適切な韓国語文を作成する。正答となる韓国語文は日本語文の直訳では意味が通じないことを学習者に理解してもらうことを求めている問題である。

以前にもこのような問題が出題され、良問となりうると評価したことがあるが、このような問題を整序問題で出題することを疑問に思う。特に問3は、「밑도 끝도」を逆にして「끝도 밑도」と言わず、その順序は、何の思考力を問うものでもなく、ただ知識のみを問うもので、到底良問とは言えない。整序問題にするなら、ただその表現を知っているかだけを問うのではなく、その順序を思考力をもってして考えられうる問題であるべきだ。日本語で「身も蓋もない」や「根も葉もない」という表現があるが、それを「蓋も身もない」や「葉も根もない」と言わないというのは、日本語母語話者なら分かるが、論理的に考えて、その正しい順序でなければならぬという説明はできないのではないだろうか。つまりそこで問われるのは、ただその順番でしか言わないという知識でしかない。このような問題を整序問題で出すべきではないと考える。

第2問 比較的長い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題。本試験同様、視覚的、聴覚的な情報なしに、誰がどのような発言をしているか考えながら読まなければならない、読解の問題になってしまっているところが懸念される。

A 先輩と後輩がアニメやドラマをスマートフォンのアプリで見ると、どのアプリがおすすめか

等と話している会話文。問4の会話文の内容と一致するものを選ぶ問題や、問5の会話文の内容から得た情報を整理した表を読み解く問題は日本語で表記されている。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

B ラジオでのやりとりを読んで解く問題。問2の四字熟語は学習範囲外の出題で良問とはいえない。また、共通テストの外国語韓国語の問題として出すべきではないと思われる。出題するのであれば、例えば、韓国語母語話者と非韓国語母語話者の会話において、難しい四字熟語やことわざなどを、対話しながらその意味を解いていくという形式の出題にしてはいかがだろうか。ただその四字熟語やことわざの知識を問う問題ではなく、思考力を問う問題を作成してほしい。問2以外は、語彙、表現、場面設定ともに適当であると言える。

第3問 グラフや図表、イラスト等を使用した出題で、実際にありそうな場面や状況を想定し作成されれば良問となりうる。

A 韓国の高校の給食献立表の情報を読み解く問題。学習範囲内の語彙や語法で良問と言える。

B ウェブサイトの案内文から必要な情報を読み取る問題。学習範囲内の語彙や語法で良問と言える。

C ソウルに居住する韓国人及び外国人の若者を対象とした宿泊交流会への参加募集案内文が課題文となっている。課題文章の長さや文中で扱っている語彙の難易度や設問の形式等は、想定学習範囲内で、およそ適切な問題であると言える。実際に高校生が接する可能性が高い文章の内容（交流会）と形式（案内文）で出題されていることも評価される。

第4問 長文読解問題である。新たな小説のジャンルである、「ウェブ小説」の特徴を、文章の構成や読者との関係、さらに商業的な利益構造などの観点から述べたエッセイである。ウェブ小説が登場する直前に世に出たインターネット小説と比較しながら論じている。普段ウェブ小説に触れていない高校生にとっては、難解とも言える語彙（ウェブ小説、プラットフォーム、絵文字、サイトなど）が多数あり、生活環境により理解度に差が出るという点で多少公平感に欠ける部分もある。それ以外は、難易度、表現において適当な文章であると言える。

各問の形式及び語彙の難易度は、ほぼ適当であるが、問1の漢字語問題において極端に難易度が高い問題が出題された。（イ）の問題である。以下に読者に分かりやすく説明するために該当する文章を抜き出し、日本語に翻訳を試みる。

訳) このように大規模資本の投資で丕丕されたプラットフォームは、～

文章中の丕と同じ漢字を使う単語を①～④の中から選ぶ問題である。この丕の漢字表記は造形となり、①～④の丕が造になる単語を選ばなくてはならない。しかし、本委員が何度繰り返し見ても①～④の中に造になる単語が見つからないのである。①～③は学習範囲内と呼べる単語で、いずれも造でないことが容易に分かるが、④は、どう考えても「操作」であると考えてしまう。これは、韓国語の丕丕が漢字語「造作」であり、「捏造」の意味を有することを理解していないと解けない、非常に難易度の高い問題であることが理由である。一般の学習者は「造作」ではなく「操作」をイメージしてしまう。日本語の漢字語と韓国語の漢字語の間で微妙に違いがあることに着目した問題であるが、難易度が高く学習範囲を大きく超えた問題であることをここに指摘しておく。この漢字語問題以外は、おおむね適当な問題であると言える。

3 ま と め（総括的な評価）

本試験と同様追・再試験も、おおむね本委員が想定する学習範囲内に収まった問題と言える。今後も今回程度の学習範囲を想定し、作問をしていただくことを望む。その上で、以下の点での改善を望む。

1. 第1問の「音の変化の規則の知識」を問う問題の削除若しくは対話形式問題への挿入
2. 第4問の分割化（複数の長文読解問題）、若しくは第5問（長文読解問題）の設置
3. 第4問の漢字語問題を「学習範囲」内の難易度に抑えること

上記3点について御検討を頂き、高等学校学習者にとってより有益な問題の作成をお願いするものである。